

北関東防衛局広報



防衛省北関東防衛局総務部報道官編集発行
さいたま市中央区新都心2-1
<http://www.mod.go.jp/rdb/n-kanto/>



写真は「第1空挺団の降下訓練始めの様子」（中央即応集団第1空挺団提供）

1月11日（日）、北関東防衛局管内の習志野演習場において、浜田防衛大臣の視察の下、中央即応集団第1空挺団による平成21年「降下訓練始め」が行われました。この訓練は、年の始めに落下傘による降下及びヘリコプターを使用した訓練を展示し、自衛隊の理解と信頼を得るものです。

この訓練は、昭和44年、習志野演習場において、1年間の降下訓練の安全を祈る「開傘祈願祭」として行っていた部内行事を、昭和49年から一般に公開しています。

演習場周辺では、家族連れ等の大勢の見学者が訪れ、第1空挺団隊員による勇壮かつ華麗な落下傘の舞い降りる様子を見上げていました。当日の天候も透き通るような青空で、日本の安全と平和を守る自衛隊員の訓練が、多くの人々に観ていただけた有意義な一日でした。

東部方面隊創立記念行事

1月10日（土）、北関東防衛局管内に所在する東部方面隊は、創立49周年を迎え、東部方面隊創立記念行事として朝霞訓練場（埼玉県新座市）において訓練展示・野外演奏会が開催され、周辺に住む方々はじめ、遠くからもこの創立記念行事を観ようと多数の方々に来ていただきました。

一般公開される訓練は、日頃の隊員の訓練の成果を観てもらうものです。また、野外演奏会では、自衛隊の音楽隊が息のあった演奏を繰り広げ、観衆から盛大な拍手喝采がありました。



俊敏に動く隊員-訓練の成果が窺える



演奏しながら行進する音楽隊



演奏する音楽隊とそれに合わせて空砲を撃つ隊員

写真提供：東部方面隊

自衛隊では、創立記念行事、盆踊り、音楽会などに駐屯地等を一般の皆さんに開放しています。お近くの駐屯地等にご確認の上お出かけ下さい。また、防衛省ホームページ（<http://www.mod.go.jp/j/events/index.html>）にもイベント情報が掲載されています。

横田交流クラブ合同新年会



1月18日（日）、横田基地と近隣市町交流クラブの合同新年会が、米軍横田基地下士官クラブにおいて開催されました。

新年会には、横田基地第374空輸航空団、福生・あきる野・瑞穂・羽村・武蔵村山の横田交流クラブ、その他国会議員、関係5市町長及び関係自治体の議員、空自府中・入間基地司令、北関東防衛局からは局次長、企画部長等が参加しました。

横田基地周辺市町では、市民有志により地域と横田基地の相互理解を促進・発展させ、善意の交流を深めることを目的として「横田交流クラブ」が発足しています。

横田基地では、第374空輸航空団がホスト部隊として、各交流クラブとの間で相互に計画する夏祭り、餅つき大会、産業祭、ゴルフ大会、ハロウィンなどの行事を通じて日米親善を行っています。

日米交流合同音楽会のお知らせ

北関東防衛局は、横田基地の設置・運用について、周辺住民の皆様に理解して頂くとともに、地域のスポーツ・文化等の地域振興に寄与し、横田基地周辺住民と米軍人との相互理解を深めることを目的として日米交流合同音楽会を開催しますので、皆様お誘い合わせのうえご来場下さい。

平成21年3月15日 (日)

福生市民会館大ホール (もくせいホール)

14:30開場 / 15:00開演 (入場無料)

<第1部 プロローグ / 第2部 演奏>

出演:

福生吹奏楽団、福生高等学校吹奏楽部

福生第一中学校吹奏楽部

米国空軍太平洋音楽隊-アジア“パシフィック・トレンドズ”ほか

問い合わせ先: 防衛省 北関東防衛局 企画部 地方調整課

048-600-1800 (内線2234)



主催: 防衛省 北関東防衛局
 協賛: 福生市
 在日米軍 横田基地

防衛閑話

子供の頃に読んだ本のある場面をその後もずっと忘れずに覚えていることがあります。私にとってのそうした場面のいくつかは、小学校の高学年時代に、母に買って貰って、読んだ吉川英治の「宮本武蔵」の本の中にあります。

武蔵は、武者修行の旅の中で、柳生新陰流の剣聖といわれた柳生石舟斎との太刀会いを求め、柳生の里に赴きます。たまたま京都の名門吉岡道場の次男の吉岡伝七郎も武蔵と同じく、石舟斎との太刀会いを求めに柳生の里に来ています。太刀会いなど面倒と考えた石舟斎は、使いの人間に芍薬の一枝を持たせて、吉岡伝七郎のもとに向わせます。芍薬を見せられた伝七郎は、「むっと色をなして、芍薬など京にも咲いている」と言って受け取りを拒みました。その芍薬の一枝を石舟斎が切ったものとは知らない武蔵がたまたま見つけます。武蔵は芍薬の枝の切り口を飽かずに見た後に、突然に自分の前差の小刀で切ってみます。自分の切り口と較べてみると、「やはり違う、生やさしい切り方ではない、わずかな木口であるが、切り手の非凡な手の冴えが光っている」ことを発見します。同じ芍薬の小枝を見て、何も感じない吉岡伝七郎と切り手の非凡な腕前を見抜く武蔵、この両者の間には大きな差があります。将来この両者は、京都の三十三間堂で相見えることとなりますが、結果は明らかでした。

神様はとても平等です。全ての人間に物理的には、同じものを見せたり、聞かせたりしてくれます。しかしながら表面的な目に見えたり聞こえたりする事柄の中に潜む「本質」を掴むことができる人は実は少ないということです。ITの爆発的な活用によって、これまで以上に多数の情報が氾濫する現代社会においては、ますます私達は「流される」だけになるのは不可避です。

私が最近、ある人に薦められて読んだ本に福岡伸一氏という分子生物学者が書かれた「生物と無生物のあいだ」という本があります。とても示唆的なことが多数盛り込まれている素晴らしい本ですが、この中に「チャンスは準備された心に降り立つ」と書かれています。

現代社会の情報の洪水に流されるかどうかは、宮本武蔵の日々の厳しい修練のような「準備された心」があるかどうかにかかっているということなのでしょう。(文章は筆者の個人的見解です。)